

CONTENTS

■ 巻頭インタビュー

2 福井市九頭竜中学校の建築と照明

株式会社木下設計
代表取締役社長
木下 貴之 様

株式会社木下設計
設計部課長
片山 雅哉 様

5 福井市九頭竜中学校

特集 教育施設の照明

■ 施設例

6 宮城大学 大和キャンパス アリーナ・講堂

8 宮城大学 大和キャンパス グラウンド等

■ ラइटニングシーン施設例

10 福岡中央病院

12 S-GATE博多駅東

14 大阪府庁舎 本館 ライトアップ

巻頭インタビュー

福井市九頭竜中学校の建築と照明

福井市は市北部森田地区の人口増加にともない、学校規模の適正化を図るために、令和8年4月に新たに九頭竜中学校を開校します。市内最大規模となる中学校の建築と照明について、株式会社木下設計の木下 貴之様と片山 雅哉様にお話を伺いました。



株式会社木下設計
代表取締役社長 木下 貴之 様



株式会社木下設計
設計部課長 片山 雅哉 様



特別支援室 TENQOOシリーズのスクールソフト①と黒板灯②で快適な照明環境を創出

「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」をコンセプトとした将来の教育を見据えた学校づくり。

—はじめに九頭竜中学校の新設の背景からお聞かせください。

木下 福井市北部の森田地区では、土地区画整理事業の進展に伴い、公共施設や公園などの整備が進められ、住環境が大きく向上しました。その結果、地区内の森田小学校の児童数は1,100人を超える規模へと増加していました。こうした状況を踏まえ、地域全体でより良い教育環境を確保するため、既存の森田中学校校舎を小学校へ改修し、小学校を2校化する再編が進められました。また、これまで九頭竜川を渡って灯明寺中学校へ通学していた河合小学校の児童についても、校区を統合し、九頭竜川以北の子どもたちが通学できる新たな中学校の建設が計画されました。これらの取り組みにより、福井市内でも最大規模となる新たな中学校とし

て九頭竜中学校が誕生することとなりました。—プロポーザルに際してどのような提案をされましたか。

片山 「福井市北部地域学校規模適正化基本計画」のもと、設計においては「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」というコンセプトに基づき、将来の教育を見据えた施設を建設し特色ある学校づくりに向けたプロポーザルが実施されました。

それに対して私たちは「学び」については、各階に設けたメディアセンターの「学びの森」を普通教室と一体的に活用し学年や教室を超えた多様な学びを育む場として提案しました。「生活」においては、たとえば滞在時間の長い普通教室は南側に配置し、採光・通風に優れた学習環境を確保しています。吹き抜けやテラス、中庭を設けたゆとりある空間も特徴です。「共創」については、地域の方が気軽に利用できるように体育館に隣接して地域玄関や地域連携室を設けて



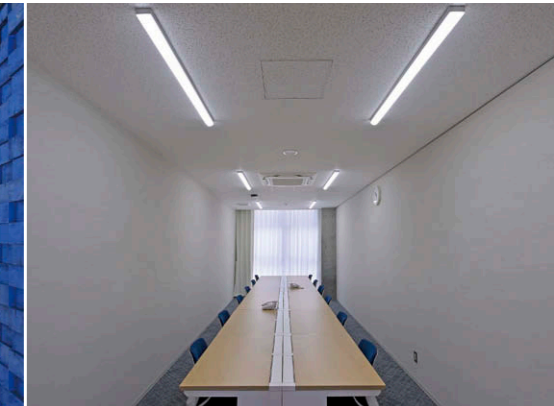
1F メディアセンター 「森のなかにいるような光環境」を演出する木の内装とLEDユニット交換形ダウンライト⑥



3F メディアセンターから教室を望む



1F 玄関 LED一体形ダウンライト⑦による照明



3F サブ職員室 TENQOOシリーズ直付形⑧による照明

多様な使い方ができるようにしています。

木下 「安全」においては日常から災害時まで命を守る学校として職員室やサブ職員室を効果的に配置して校内全体を見守りやすくしました。また利用者に応じて段階的に管理できるセキュリティラインを整え、地域開放と生徒の安全を両立しています。「持続可能性」ではパッシブデザインを積極的に取り入れ、ZEB Readyを達成する省エネルギーな学校としています。

生徒を主役に公共建築にふさわしい質実なデザインを追求。

—校舎の外観がとても印象的ですが、設計意図をご紹介ください。

片山 地域の風景に調和して生徒や地域の方に圧迫感を与えない佇まいを目指しました。建物ボリュームを適切に分割、分割し空へと段階的に開かれたセットバック構成を採用することで分棟型のようなスケール感を生み出し、軽や

かで親しみのある建築を実現しています。東口に設けた昇降口は生徒を迎え入れる「門」として象徴的な意味を持たせ、ゲートのような意匠にしました。「迎え入れる」という原初的な行為を建築に落とし込むことで生徒、教職員、地域の方々との新たな関係性を築く場となることを願っています。

—そのほか意匠面で配慮された点がありましたらお聞かせください。

木下 あくまで主役は生徒であり、建築はその日常を支える背景として静かに佇み存在ですから、過度な装飾は避け公共建築としてふさわしい質実なデザインを追求しました。市民の大切な税金によって整備される施設として節度と誠実さをもった建築を目指しています。

—学校づくりにおいて地元の子どものアイディアも反映されているそうですね。

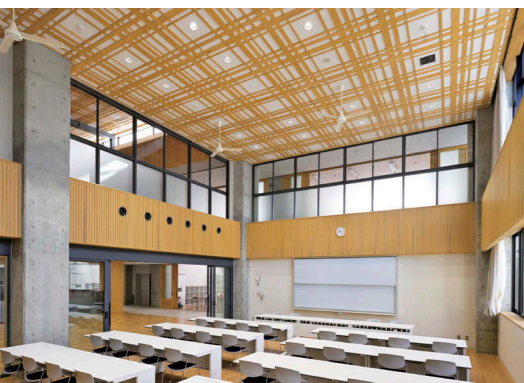
片山 ええ、昇降口を入るとすぐに生徒たちが自ら塗装に参加して完成させた総合案内が迎

えてくれます。楽しそうに声を掛け合い、協力しながらつくり上げたこの案内サインは、学校は生徒が主役という考え方の象徴です。この学校は、与えられた場所ではなく、生徒自身が関り、手を動かしながらつくってきた学校です。—先ほどお話に出たZEB Ready達成のための具体的な対策についてご紹介ください。

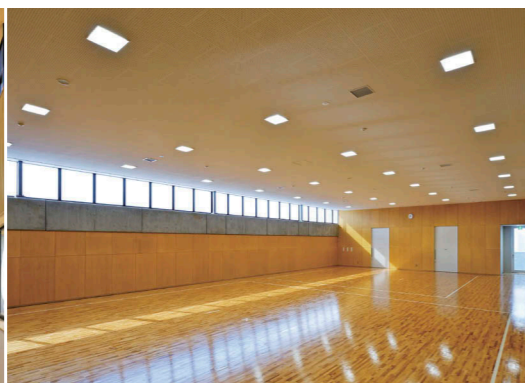
木下 教育施設では建築計画と設備計画を一体的に検討して、効率的かつ現実的な省エネルギー化を進めることでZEB Readyの達成を目指します。たとえば高効率な空調、換気設備を導入し教室や共用部の使用状況に応じた適切な運転を行います。屋根、外壁、開口部の断熱性能を高めて外気の影響を抑えることで空調負荷を低減することもその一つです。先ほど申し上げた、建物の配置や方位計画を工夫して自然採光や自然通風を最大限活かすといったパッシブデザインの活用も省エネに貢献しています。そして自然光を採り入れるとともにLED



1F 大階段 生徒同士の出会いや憩いの場、発表の場として利用される多目的な空間に採用したLEDユニット交換形ダウンライト⑥



2F メディアセンター(PC室) 天井高約6mののびやかな空間



2F 武道場 LEDベースライトスクエアタイプ④による照明



3F 普通教室 グレアを抑え室内をムラなく照らすTENQOOシリーズのスクールソフト①と黒板灯②

照明器具を全面的に採用し照明エネルギーを削減します。さらに階段や一部の廊下、トイレや更衣室などは人感センサーによる制御でエネルギー消費を抑えています。

照明設計のコンセプトは「森のなかにいるような光環境」。

—照明設計における基本的な考え方はどのようなものでしょうか。

片山 本校は面積条件の制約から中廊下型の計画となり、どのように十分な採光を取り入れるかという課題がありました。照明計画においては単に明るさを確保するだけでなく、自然光に近い、柔らかく落ち着いた光環境をつくることを基本方針にしています。照明設計のコンセプトは「まるで森のなかにいるかのような光環

境」です。照明器具が主張し過ぎず、木材や内装になじみ、空間全体を包み込むような光の広がり大切にしています。

木下 教育施設であり、雨や雪の多い福井という地域特性から、屋内で過ごす時間が長くなることをふまえ、室内にいながら自然を感じられる空間を目指しています。コスト面にも配慮しながら色温度や配光、グレア抑制に留意し心地よい照明器具を選定しています。

穏やかで安心感がある居場所性に優れた照明環境を創出。

—木質感あふれる各階のメディアセンター、「学びの森」の柔らかくかつ開放感に満ちた空間がとても魅力的ですね。

木下 「学びの森」は生徒が自然と集い屋外の

森に包まれているようなスケール感を意識し、天井は森の枝や葉をメタファーとした格子状の構成として、その隙間から木漏れ日が差し込むような空間をイメージしています。照明器具は木材や仕上げと調和する温かさを感じられるものとして、LEDユニット交換形ダウンライトのグレアレスタイプを採用しています。2階のメディアセンターにはPC室がありますが、ここは木のルーバーのデザインに合わせて、ルーバーの隙間から照明が入るように机とともに器具の位置を調整しました。色温度に関しては教育施設であることをふまえて全体的に昼白色を基本としています。

片山 大階段も同様で、単なる動線ではなく生徒同士の出会いや憩い、発表の場としても使われる多目的な空間であり、日常的な利用からイ

令和8年4月に開校する九頭竜中学校は教育目標として「地域とともに誇れる未来を創造する生徒の育成」を掲げ、学校像として「伝統を創造し、将来にわたって地域のシンボルとなる誇り高き学校」を目指しています。開校時は現在の森田中学校と灯明寺中学校の一部の生徒合わせて約550人が通う予定で、将来的には700人規模の県内でも有数のマンモス校になることが想定されております。



【物件概要】
所在地：福井県福井市八重巻町第4号33番地1
敷地面積：38,253㎡
延床面積：10,063㎡
規模構造：校舎／鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3階建 7,834㎡
体育館棟／鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 2階建 2,229㎡
施主：福井市
設計：株式会社木下設計
施工：株式会社伊藤電機・株式会社豊島電工 特定建設工事共同企業体
竣工：2026年3月



体育館 LED高天井器具⑧を採用



1F 職員室 TENQOOシリーズ40タイプ直付形⑤を採用



1F 校長室 LEDベースライトスクエアタイプ④を採用

イベント時まで対応できるように木材の温かさを感じられる照明演出を図っています。また各階の廊下も同じ照明器具を採用していますが、廊下も単なる通路ではなく「学びの森へ」連続する空間として捉えているためです。ちょっとした会話自然と生まれるような、居場所性のある場になるように考慮しています。

—教室についてはいかがですか。

木下 普通教室、特別教室は生徒が長時間滞在する空間であるため、落ち着いて学びに集中できることを重視しました。室内をムラなく照射してグレアがない学習環境をつくるために、LEDベースライトTENQOOシリーズからスクールソフトと黒板灯を全面的に採用しました。過度な演出を避け、木材や仕上げの質感が生きる穏やかで安心感ある空間で学んでもらえると思

います。
—体育館も生徒はもちろん地域の利用が多い施設です。

片山 はい、体育館は日常の授業から行事、地域利用まで多様な使われ方を想定した大空間で、可動式のステージを採用しているのもそのためです。照明は建築物への負荷が少ない軽量、高効率のLED高天井器具を採用し、機能性を確保しつつ学校全体のコンセプトと調和するような空間づくりを意識しました。

メディアセンターを軸に、生徒が夢や目標をもち、努力していく場になるように。

—新しく開校する九頭竜中学校が生徒にとってどのような学びの場、成長の場になることを期

待されますか。

木下 この学校では生徒たちが日常のなかで自然と人や本、情報と出会うようにすることを重視しました。メディアセンターを中央に配置して、語り合う、学び合う、調べる、本を読むといったことが日常の一部になる。家に帰らなくてもここで友だちとワイワイ過ごせる。そこから自分のやりたいことや夢に気づいて努力していく。そんな循環が静かに芽生えていくことを願っています。また地域連携については変化し続ける時代のなかで、ワークショップや体験学習をはじめ幅広くしなやかに利用され、長く愛されていくことを期待します。

—本日はお忙しいなか、貴重なお話をお聞かせいただきありがとうございました。

(2026年2月18日取材)

主な掲載器具一覧	設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考
校内	①	LEDベースライトTENQOOシリーズスクールソフト	LEKT420523N-LS9	473	消費電力：32.5W
	②	LEDベースライトTENQOOシリーズ 黒板灯	LEKR414323N-LS9	105	消費電力：19.5W
	③	LEDベースライトTENQOOシリーズ40タイプ直付形	LEKT407523N-LS9	100	消費電力：32.5W
	④	LEDベースライト一体形スクエア埋込形□350タイプ	LEKR35S451N-LD9	48	消費電力：31.9W
	⑤	LEDベースライト一体形スクエア埋込形□600タイプ	LEKR60S651N-LD9	19	消費電力：41.5W
	⑥	LEDユニット交換形ダウンライトグレアレスタイプ	LEKD2533023NV-LS9	249	消費電力：17.1W
	⑦	LED一体形ダウンライトグレアレスタイプ	LEKD60353MN2V-LD9	24	消費電力：45.0W
	⑧	LED高天井器具	LEDJ-43006N-LD9	24	消費電力：228.0W